

評判が男性の短期配偶相手の選択に及ぼす影響

新井田 恵美*・堀毛 一也**

問題

現在の日本社会は一夫一婦制度をとっており、一組の男女が結婚し、子育てをする形をとる。しかし、実際にはそれ以外にも、浮気や一晚限りの関係といった形もある。進化心理学では、こうした形を明確に区別し、前者のような長期的で安定的な関係を長期配偶 (long-term mating) とよび、後者のような短期的な関係を短期配偶 (short-term mating) とよぶ。これまでの研究から、配偶相手に求める特徴 (characteristics : 例. 優しさ、身体的魅力) は、性別や配偶関係 (長期配偶か短期配偶か) によって異なることが示されている。本研究の目的は「男性」の短期配偶におけるコストに着目し、これまで示されてきた配偶相手の特徴とは異なる特徴を「男性」が短期配偶の際に選好することを示すことである。

長期配偶と短期配偶で重視される特徴

男性は妊娠期間や授乳期間などがなく、一回の繁殖が終わってから次の繁殖にうつるまでの期間が短くて済む。そのため、男性は短期配偶をおこないやすく (Buss & Schmitt, 1993 ; Clark & Hatfield, 1989)、短期配偶は男性にとって投資をせずに子どもを残せるという意味で適応的である。ただし、長期配偶と短期配偶では、男性の子どもに対する投資量は大きく異なる。すなわち、男性は長期配偶をおこなう場合には子どもに対して多くの投資をする一方で、短期配偶をおこなう場合にはあまり投資をしない。

長期配偶と短期配偶における投資量が異なることは、それぞれの配偶相手に求める特徴に違いをもたらす。すなわち、男性が短期配偶相手を選ぶ場合には、できる限り多くの女性と関係を結ぶことが望ましいため、長期配偶相手を選ぶ場合に比べて、女性に求める特徴の水準を下げて (Buss & Schmitt, 1993 ; Gladue & Delaney, 1990)、優しさや創造性 (Li & Kenrick, 2006)、経済力 (Kenrick, Sadalla, Groth, & Trost, 1990) を相手に求めなくなる。

ただし、短期配偶をおこなう際に全ての特徴の水準を下げるわけではない。短期配偶をおこなう場

* 人間科学総合研究所奨励研究員

** 人間科学総合研究所客員研究員

合も長期配偶をおこなう場合と同様、子どもを残すことを目的としているため、妊娠しやすさの手がかりを示す特徴については短期配偶をおこなう際に必ずしも水準を下げない (Kenrick et al., 1990; Li & Kenrick, 2006)。たとえば、唇の厚さや肌の綺麗さといった身体的特徴は健康さや妊娠のしやすさの手がかりとなる (Johnston & Franklin, 1993; Symons, 1979)。そのため、短期配偶相手を選ぶ際にも長期配偶相手を選ぶ際と同様、身体的魅力 (physical attractiveness) を重視し、その基準を下げないことが示されている (Kenrick et al., 1990; Li & Kenrick, 2006)。

このように、これまでの男性の配偶者選択に関する研究では、長期配偶をおこなうのか、短期配偶をおこなうのかによって選好する特徴が異なることが頑健に示されてきた。それに対して本研究では、以下で述べるように、男性の短期配偶におけるコストに注目することで、これまで示されてきた特徴とは異なる特徴が選択の際に重視され、ときにはその特徴が身体的魅力よりも重視されることを示す。

男性の短期配偶におけるコスト

男性の短期配偶は、少ない投資で子どもを増やすことができるというベネフィットがある一方、コストも存在する。男性の短期配偶におけるコストとしては、短期配偶相手に配偶者がいた場合にその配偶者から暴力を受ける可能性があること、短期配偶相手の父親や兄弟から暴力を受ける可能性があること、望ましい女性から長期配偶相手として選ばれにくくなること、などが挙げられている (Buss, 2012)。短期配偶にこのようなコストがあるならば、男性は短期配偶をしたという評判がたつことに対して敏感であると思われる。すなわち、男性は (a) 評判がたつ可能性が高いときには短期配偶をしない、(b) 短期配偶相手を選ぶ際には評判がたちにくい相手を選択する、ことなどが考えられる。

前者の可能性については新井田・堀毛 (2014) が検討をおこなっている。新井田・堀毛は、近年互恵的利他行動の文脈で用いられている評判の操作を援用し、評判が男性の短期配偶志向に及ぼす影響を検討している。実験の結果、男性は評判が顕現化したときには、顕現化していないときに比べて短期配偶志向を抑制していた。この結果は、男性は評判がたつ可能性が高いときには短期配偶をしないことを示唆している。

本研究では後者の可能性、すなわち、男性は短期配偶相手を選ぶ際には評判がたちにくい相手を選択する可能性について検討する。評判が内集団成員からの評価であると考えたと (山岸, 2009)、男性は自身の短期配偶が内集団成員に知られないようにするだろう。したがって、たとえば男性が短期配偶相手を選ぶときには内集団成員に比べて外集団成員を選びやすいと思われる。この仮説を検討するため、本研究では5つの実験を実施した。

研究 1

上記で述べたように、短期配偶をした際、短期配偶をしたという評判がたちやすいのは、相手が外集団成員であるときよりも内集団成員であるときだと考えられる。そこで研究1では、この可能性に

ついて検討する。集団成員性は、判断する架空の女性ターゲットが参加者（男性）と同じサークルに所属しているか、異なるサークルに所属しているかどうかで操作する。そして、長期配偶相手あるいは短期配偶相手として、どちらの女性が望ましいかを尋ねることとする。

仮説

短期配偶相手を選択する場合には長期配偶相手を選択する場合に比べて、外集団成員の方をより選好するだろう。

方法

参加者 男子大学生 68 名（平均年齢 18.96 歳， $SD = 1.14$ ）。参加者は全て日本人であった。

実験計画 長期配偶 vs. 短期配偶の 1 要因 2 水準の参加者間計画であった。

刺激（提示した女性のプロフィール） 2 人の女性は、「M・N さん」と「R・S さん」とした。「M・N さん」は、「年齢：20 歳、星座：水瓶座、見た目：美人、所属サークル：あなたと同じサークル（内集団成員）」とし、「R・S さん」は、「年齢：20 歳、星座：射手座、見た目：美人、所属サークル：あなたと違うサークル（外集団成員）」とした。

手続き 参加者には「恋愛観に関する研究」と説明した。そして、講義中に質問紙をランダムに配布した。また、質問紙には学籍番号などの個人を特定できるような情報を書かないこと、それによって個人を対象とした分析はおこなえないこと、集めたデータは厳重に管理されることを参加者に伝えた。さらに、質問紙中に回答したくない項目があった場合、その項目には回答しなくても構わないということも伝えた。質問紙の主な内容については以下に記述する。

質問紙の内容

- (1) 年齢、学年、国籍などのデモグラフィック要因について尋ねた。
- (2) 参加者の現在の恋愛状況に関する項目について尋ねた（例：「現在付き合っている人はいますか？」「付き合っていてどれくらいですか？」）。
- (3) 社会的性志向性尺度（sociosexual orientation index (SOI) : Simpson & Gangestad, 1991）について尋ねた（例：「今まで、1 度だけの sex をした相手は何人いますか？」）。

なお分析の結果、参加者の現在の恋愛状況に関する項目と SOI については有意な効果は認められなかった。そのため、これらの項目についてはここでは報告しない。

- (4) 女性のシルエットの画像（同一の画像を反転させたもの）とともに、上記の 2 人の女性のプロフィールを両端に提示し、短期配偶相手（または長期配偶相手）としてどちらの女性が良いかについて 7 件法で尋ねた（1：絶対に M・N さんを選ぶ～7：絶対に R・S さんを選ぶ）。短期配偶相手を選ぶ場合は「今あなたは遊びで 1 日だけ sex する相手を選ぼうとしています。そのときに、以下に挙げる女性のどちらを選びますか」と尋ねた。長期配偶相手として選ぶ場合は「今あなたは結婚する相手を選ぼうとしています。そのときに、以下に挙げる女性のどちらを選びますか」と尋ねた。

全員の回答終了後、デブリーフィングをおこなった。

結果と考察

研究1の仮説は、短期配偶相手を選択する場合には長期配偶相手を選択する場合に比べて、外集団成員の方をより選好するだろうというものであった。仮説を検証するために配偶条件を独立変数としたt検定をおこなった。その結果、短期配偶相手を選択する場合 ($M=5.27$) には、長期配偶相手を選択する場合 ($M=4.34$) よりも、外集団成員 (違うサークル) を選好していた ($t(66)=2.16, p=.035$; Figure 1)。この結果は仮説を支持するものであった。また、短期配偶相手を選択する場合には外集団成員をより選好するかどうかを検証するために、尺度の理論的中央値である4と回答の平均値を比較したところ、短期配偶の平均値は有意に高かったが ($t(32)=4.79, p<.01$)、長期配偶条件の平均値には有意な差はなかった ($t(34)=1.02, ns$)。この結果から、短期配偶相手を選択する場合には内集団成員よりも外集団成員をより選好するが、長期配偶相手を選ぶ場合には集団成員性は影響しないことが示唆された。

研究1の結果は、男性は短期配偶相手を選択する場合には長期配偶相手を選択する場合に比べて、外集団成員を選好するというものだった。これは、男性が短期配偶をする際、短期配偶をしたことが自分の周囲の人に知られてしまい、評判になってしまうことに対して敏感になっていることを示唆するものである。

ただし、男性が短期配偶をする際に内集団成員よりも外集団成員を選好するという結果は、内集団成員を選択することがコストとなることを間接的に示しているが、直接的には示していない。したがって、研究2ではこの点について検討する。具体的には、研究1で操作した集団成員性の他に、コストとベネフィットに関する情報を操作する。問題部分で述べたように、身体的魅力は健康さや妊娠のしやすさを反映するものであり、魅力度が高い女性と関係をもつ方が、そうではない女性と関係をもつよりもベネフィットがある。実際、身体的魅力は短期配偶をおこなう際にも長期配偶をおこなう

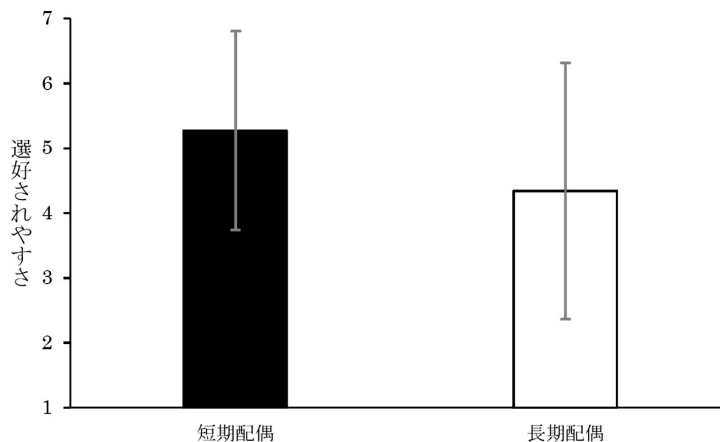


Figure 1. 配偶条件ごとの女性の選好されやすさ

(注1) 得点が高いほどR・Sを選好している。

(注2) 図中のバーは標準偏差を表している。

際にも最も重視される要因である (Li & Kenrick, 2006)。そこで、研究2ではターゲット女性の外見を操作して (研究1では、どちらの女性も美人で統一していた)、「身体的魅力が高い、内集団成員 (評判がたちやすい人)」と「身体的魅力が普通で、外集団成員 (評判がたちにくい人)」という組み合わせのプロフィールを作成する。男性が短期配偶をする際、評判のたちやすさがコストになるならば短期配偶相手として、「身体的魅力が高い、内集団成員」よりも「身体的魅力が普通で、外集団成員」を選好するだろう。

また研究1では、相手の集団成員性によって評判の伝わりやすさが異なると想定していたが、集団成員性以外にも評判の伝わりやすさの程度を規定する要因が考えられる。たとえば、配偶相手の女性が自分の友人と知り合いかどうかによっても異なるだろう。つまり、共通の友人がいるときの方が評判がたちやすいと考えられる。そこで研究2では、評判の伝わりやすさを共通の知人の有無によって操作する。

さらに、研究1の結果が、提示したターゲット女性のプロフィール (星座など) 固有の効果でないことを確認するために、イニシャルと星座を「M・Nさん、水瓶座」、「R・Sさん、射手座」から「C・Tさん、牡羊座」、「M・Wさん、天秤座」に変更する。

研究 2

研究2では、まず、女性の身体的魅力の操作を加え、短期配偶相手を選択する際に評判が伝わりやすい相手を選ぶことがコストとなるかどうかを検討する。また、評判の伝わりやすさは共通の知人の有無によって操作する。すなわち、男性が短期配偶を選択する際には、評判が伝わりにくいよう、共通の知人がいない人を選びやすいかどうかを検討する。

仮説

短期配偶相手を選択する場合には長期配偶相手を選択する場合に比べて、身体的魅力が劣っていても共通の知人がいない人をより選好するだろう。

方法

参加者 男子大学生 66名 (平均年齢 18.89歳, $SD = 1.19$)。参加者は全て日本人であった。

実験計画 長期配偶 vs. 短期配偶の1要因2水準の参加者間計画であった。

刺激 (提示した女性のプロフィール) 2人の女性は、「C・Tさん」と「M・Wさん」とした。「C・Tさん」は、「年齢：20歳、星座：牡羊座、見た目：可愛い (身体的魅力が高い)、共通の友達がいる (評判が伝わりやすい)」とし、「M・Wさん」は、「年齢：20歳、星座：天秤座、見た目：普通 (身体的魅力が普通)、共通の友達はいない (評判が伝わりにくい)」とした。

手続き 参加者には研究1と同様に、「恋愛観に関する研究」と説明した。そして、講義中に質問紙をランダムに配布した。質問紙には学籍番号などの個人を特定できるような情報を書かないこと、それによって個人を対象とした分析はおこなえないこと、集めたデータは厳重に管理されることを参加者に伝えた。さらに、質問紙中に回答したくない項目があった場合、その項目には回答をし

なくても構わないということを伝えた。質問紙の主な内容は基本的に研究1と同じで、以下のようなものであった。

- (1) 年齢、学年、国籍などのデモグラフィック要因について尋ねた。
- (2) 参加者の現在の恋愛状況に関する項目について尋ねた（例：「現在付き合っている人はいますか?」「付き合っていてどれくらいですか?」）。
- (3) SOIについて尋ねた。なお研究1の結果、参加者の現在の恋愛状況に関する項目とSOIについては有意な効果は認められなかったため、これらの項目については分析から除外した。
- (4) 女性のシルエットの画像（同一の画像を反転させたもの）とともに、上記のように変更した2人の女性のプロフィールを両端に提示し、短期配偶相手（または長期配偶相手）としてどちらの女性が良いかについて7件法で尋ねた（1：絶対にC・Tさんを選ぶ～7：絶対にM・Wさんを選ぶ）。短期配偶相手を選ぶ場合は「今あなたは遊びで1日だけsexする相手を選ぶようとしています。そのときに、以下に挙げる女性のどちらを選びますか」と尋ねた。長期配偶相手として選ぶ場合は「今あなたは結婚する相手を選ぶようとしています。そのときに、以下に挙げる女性のどちらを選びますか」と尋ねた。

全員の回答終了後、デブリーフィングをおこなった。

結果と考察

研究2の仮説は、短期配偶相手を選択する場合には長期配偶相手を選択する場合に比べて、身体的魅力が劣っていても共通の知人がいない人をより選好するだろうというものである。この仮説を検証するために配偶条件を独立変数としたt検定をおこなった。その結果、短期配偶相手を選択する場合 ($M=3.88$) は、長期配偶相手を選択する場合 ($M=2.35$) に比べて、「身体的魅力が普通で、共通の友人がいない」女性を好んでいた ($t(50.58)=3.60, p=.001$; Figure 2)。この結果は、研究2の仮説を支持

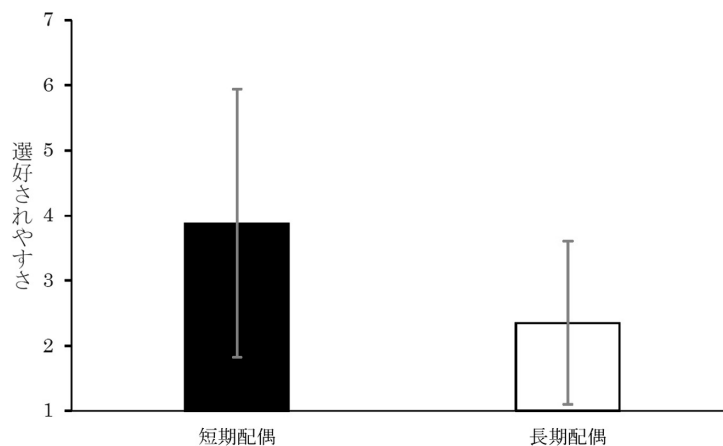


Figure 2. 配偶条件ごとの女性の選好されやすさ

(注1) 得点が高いほどM・Wを選好している。

(注2) 図中のバーは標準偏差を表している。

するものであった。

さらに、回答の平均値を尺度の理論的中央値である4(=どちらともいえない)と比較をおこなったところ、短期配偶の平均値には有意な差はなかったが($t(31) < 1, ns.$)、長期配偶条件の平均値は有意に低かった($t(34) = 7.68, p < .01$)。この結果から、長期配偶の際には、共通の知人の有無に関係なく「身体的魅力が高い」というベネフィットをもつ女性を選ぶ一方で、短期配偶の際には共通の知人がいるということがコストとなるため、必ずしも「身体的魅力が高い」女性を選ばないことが示唆された。

研究1、2では、短期配偶をしたということが内集団成員に知られ、評判になってしまう可能性を調整する変数として集団成員性や共通の知人の有無を取り挙げた。しかしこれらの変数は、短期配偶相手と自分との心理的距離が交絡している可能性がある。言い換えると、評判の伝わりやすさが短期配偶相手の選択を規定しているのではなく、関係性の近さが短期配偶相手の選択を規定している可能性がある。あるいは、外集団成員や共通の友人がいない女性は、内集団成員や共通の友人がいる女性よりも実数が多いので、配偶機会を増やすために、共通の友人がいない女性を選好していたという解釈もできるだろう。

したがって、研究3ではこうした代替説明を排除するため、関係性の近さや配偶機会とは独立した「口の堅さ」を取り上げて検討する。もしも、男性が短期配偶相手を選択する際に、関係性の近さや配偶機会を気にしているのではなく、評判の伝わりやすさを気にしているのであれば、自分との関係性が近い女性であったとしても、口が堅い女性であれば選好すると考えられる。研究3では、この仮説について検討をおこなう。具体的には、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が堅い」女性と「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が軽い」女性と「身体的魅力が普通、共通の友人がいない、口が堅い」女性の中で選択のされやすさを検討する。もし男性が短期配偶の評判を気にかけるのであれば、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が堅い」女性がかもっとも選択されやすいだろう。さらに研究2と同様に、「身体的魅力が普通、共通の友人がいない、口が堅い」女性の方が「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が軽い」女性よりも選択されやすいだろう。

研究1、2では、2人の女性の相対的な評価を尋ねていたが、研究3では選択肢が3人となるため、相対的な評価をおこなうことは手続きが煩雑になる。そこで、研究3では、女性の評価を絶対的評価で尋ねることとした。なお、3人のターゲット女性のプロフィールの回答順についてはカウンターバランスをとった。

研究 3

研究3では、関係性の近さや配偶機会が男性の短期配偶相手の選択を規定しているのではなく、評判の伝わりやすさが規定していることを示すために、短期配偶相手の口の堅さが男性の短期配偶相手の選択に及ぼす影響を検討する。

仮説

男性が短期配偶相手を選択する場合、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が堅い」女性、「身体的魅力が普通、共通の友人がいない、口が堅い」女性、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が軽い」の順に選好されるだろう。

方法

参加者 男子大学生 123 名 (平均年齢 19.59 歳, $SD = 1.38$)。参加者は全て日本人であった。

実験計画 「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が堅い」 vs. 「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が軽い」 vs. 「身体的魅力が中程度、共通の友人がいない、口が堅い」の 1 要因 3 水準の参加者内要因計画であった。

刺激 (提示した女性のプロフィール) : 3 人の女性は「N・S さん」、「C・T さん」、「M・W さん」とし、順に「年齢 : 20 歳、星座 : 水瓶座、見た目 : 可愛い、共通の友達がいる、口が堅い」、「年齢 : 20 歳、星座 : 牡牛座、見た目 : 可愛い、共通の友達がいる、口が軽い」、「年齢 : 20 歳、星座 : 天秤座、見た目 : 普通、共通の友達はいない、口が堅い」とした。

手続き

研究 1 と 2 と同様に、参加者には「恋愛観に関する研究」であると説明した。そして、講義中に質問紙をランダムに配布した。また、質問紙には学籍番号などの個人を特定できるような情報を書かないこと、それによって個人を対象とした分析はおこなえないこと、集めたデータは厳重に管理されることを参加者に伝えた。さらに、質問中に回答したくない項目があった場合、その項目には回答をしなくても構わないということも伝えた。質問紙の主な内容は基本的に研究 1 と同じで、以下のようなものであった。

- (1) 年齢、学年、国籍などのデモグラフィック要因について尋ねた。
- (2) 女性のシルエットの画像 (同一の画像) とともに、上記の 3 人の女性のプロフィールを提示し、短期配偶相手としてどのくらい魅力的に感じるかについて 7 件法で尋ねた (1 : 全くそう思わない ~ 7 : 非常にそう思う)。具体的には、「今あなたは遊びで 1 日だけ sex する相手を選ぼうとしているとします。以下に挙げる女性は 1 日だけの相手として、どのくらい魅力的だと思いますか」と尋ねた。女性の魅力度の解答順は、カウンターバランスをとって提示した。
- (3) 参加者の現在の恋愛状況に関する項目について尋ねた (例 : 「現在付き合っている人はいますか?」「付き合ってどれくらいですか?」)。

全員の回答終了後、デブリーフィングをおこなった。

結果と考察

研究 3 の仮説は男性が短期配偶相手を選択する場合、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が堅い」女性、「身体的魅力が普通、共通の友人がいない、口が堅い」女性、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が軽い」の順に選好されるだろうというものであった。この仮説を検討するために 6 (提示順序) × 3 (女性の特性) の分散分析をおこなった。その結果、女性の特性の主効果のみ有意であった ($F(2,232)=60.26, p<.01$)。そこで Bonferroni による多重比較をおこなったところ、「可愛

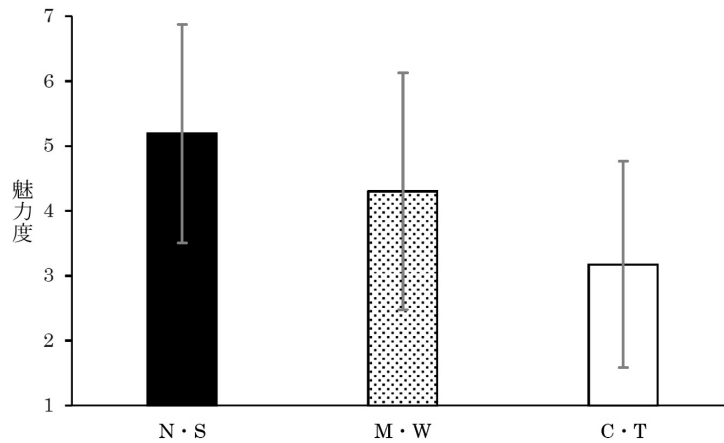


Figure 3. 各女性の魅力度の平均値

(注1) 得点が高いほど短期配偶相手として魅力的だと感じている。

(注2) 図中のバーは標準偏差を表している。

い、共通の友達がいる、口が堅い」女性 ($M=5.19$) は、「普通、共通の友達がない、口が堅い」女性 ($M=4.31$) や「可愛い、共通の友達がいる、口が軽い」女性 ($M=3.17$) よりも有意に選好されていた (Figure 3)。さらに「普通、共通の友達がない、口が堅い」女性の方が、「可愛い、共通の友達がいる、口が軽い」女性よりも有意に選好されていた。これらの結果は、研究3の仮説を支持するものであった。

研究3では、女性の口の堅さが男性の短期配偶者選択に及ぼす影響を検討した。その結果、男性は短期配偶をする際、口が堅い女性であるならば、心理的距離が近い女性であっても選好することを示していた。これは、評判の伝わりやすさが男性の短期配偶相手の選択を規定することを示唆している。

研究1~3を通じて、男性は短期配偶相手を選ぶ際には評判がたちにくい相手を選択するだろうという仮説を支持する結果が得られた。

しかし、これらの結果は大学生を対象とした研究から得られたものであり、一般化可能性については検討できていない。したがって、研究4、5では、一般市民調査をおこない、幅広い年代においても同様の結果が得られるか検討する。研究4では、研究2の内容についての一般化可能性を検討する。具体的には、4人の女性のプロフィールを提示し、女性の評価を絶対評価で尋ねることとした。また研究5では、研究3の内容についての一般化可能性を検討する。一般市民調査では、参加者の年齢の幅が広がるのが想定されるため、研究4、5では提示する女性の年齢を28歳とすることとした。

研究 4

研究4では、研究2の一般化可能性について検討する。具体的には、身体的魅力と共通の知人の有

無を組み合わせ、4つのパターンの女性のプロフィールを提示する。

仮説

仮説1：男性は短期配偶相手として、「見た目が良い・評判が伝わりにくい」女性を最も好むだろう。

仮説2：また、「見た目が普通・評判が伝わりにくい」女性、「見た目が良い・評判が伝わりやすい」女性の間には差はないだろう。

仮説3：さらに、「見た目が普通・評判が伝わりやすい」女性が最も好まれないだろう。

方法

調査期間 2016年1月27日～2016年1月31日に、Web調査会社（株式会社インテージ）に調査を依頼した。

参加者 一般市民214名（平均年齢39.98歳； $SD = 11.47$ ）。参加者はすべて男性であった。なお、内1名が外国籍であった（外国籍の参加者は分析から除外した）。

実験計画 「身体的魅力が高い、共通の知人がいる」vs.「身体的魅力が高い、共通の知人がいない」vs.「身体的魅力が中程度、共通の知人がいない」vs.「身体的魅力が中程度、共通の知人がいない」の1要因4水準の参加者内要因計画であった。

刺激（提示した女性のプロフィール）：4人の女性は「C・Tさん」、「M・Wさん」、「N・Sさん」、「R・Nさん」とし、順に「年齢：28歳、星座：牡牛座、見た目：可愛い、共通の知人がいる」、「年齢：28歳、星座：天秤座、見た目：普通、共通の知人はいない」、「年齢：28歳、星座：水瓶座、見た目：可愛い、共通の知人はいない」、「年齢：28歳、星座：射手座、見た目：普通、共通の知人がいる」とした。

手続き

参加者には「恋愛観に関する研究」であると説明した上で、Web上で調査をおこなった。調査を実施するにあたり、参加者に、個人を対象とした分析はおこなわないことや、質問項目への回答中に回答したくない項目があった場合には、回答をしなくても構わないということを伝えた。質問項目の主な内容は以下に示した。

- (1) 性別、年齢、配偶関係、国籍などのデモグラフィック要因について尋ねた。
- (2) フィラー項目として、恋愛に対する価値観について5項目7件法で尋ねた（例：「私は、恋愛は人生を豊かにしてくれるものだと思う」）。
- (3) 女性のシルエットの画像（同一の画像）とともに、上記の4人の女性のプロフィールを提示し、短期配偶相手としてどのくらい魅力的に感じるかについて7件法で尋ねた（1：全くそう思わない～7：非常にそう思う）。具体的には、「今あなたは遊びで1日だけsexする相手を選ぶようとしています。以下に挙げる女性は1日だけの相手として、どのくらい魅力的だと思いますか」と尋ねた。女性の魅力度の解答順は、カウンターバランスをとって提示した。

結果と考察

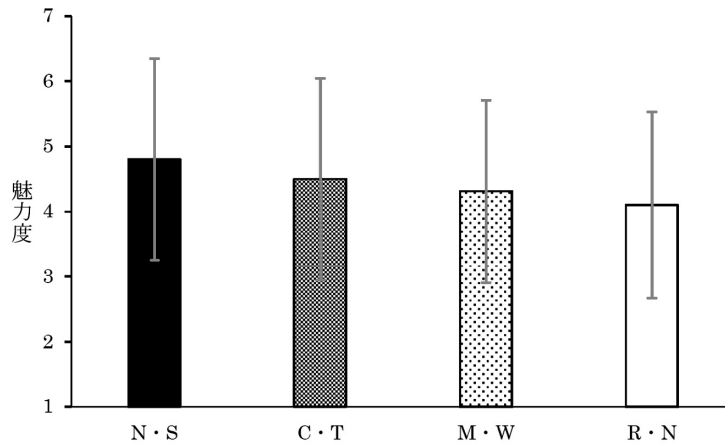


Figure 4. 各女性の魅力度の平均値

(注1) 得点が高いほど短期配偶相手として魅力的だと感じている。

(注2) 図中のバーは標準偏差を表している。

研究4の仮説は、仮説1：男性が短期配偶相手として、「見た目が良い・評判が伝わりにくい」女性を最も好むだろう。仮説2：また、「見た目が普通・評判が伝わりにくい」女性、「見た目が良い・評判が伝わりやすい」女性の間には差はないだろう。仮説3：さらに、「見た目が普通・評判が伝わりやすい」女性が最も好まれまいだろうというものであった。仮説を検証するために参加者内要因の一元配置の分散分析をおこなった。その結果、要因の効果が有意であった ($F(3,594)=21.99, p<.01$)。そこで下位検定をおこなった結果、「身体的魅力が高く、評判が伝わりにくい」女性 (「N・S」; $M=4.80$) は他の3人との間に有意な差があった。また、「身体的魅力が高く、評判が伝わりやすい」女性 (「C・T」; $M=4.50$) と「身体的魅力が普通で、評判が伝わりやすい」女性 (「R・N」; $M=4.10$) の間にも有意な差があった。しかし、「C・T」と「M・W」($M=4.31$) の間と、「M・W」と「R・N」の間には有意な差はなかった (Figure 4)。

研究4の結果は、男性が短期配偶相手を選択する場合、「身体的魅力が高い」女性 (N・S、C・T) の方が「身体的魅力が普通」の女性 (M・W、R・N) よりも魅力的だと評価するというものだった。この結果は、先行研究の知見と一貫している。

つぎに、より重要な結果は、「評判が伝わりにくい」女性 (N・S、M・W) の方が「評判が伝わりやすい」女性 (C・T、R・N) よりも魅力的だと評価されていたという点である。また、最も魅力的だと評価されていたのは「身体的魅力が高く、評判が伝わりにくい」女性であった。この結果は、研究4の仮説1を支持するものである。さらに、「身体的魅力が高く、評判が伝わりやすい」女性 (C・T) と「身体的魅力が普通・評判が伝わりにくい」女性 (M・W) は同程度に魅力的だと評価されていた。この結果は、「評判が伝わりやすい」女性よりも「評判が伝わりにくい」女性を選ぶことで得られるベネフィットと「身体的魅力が普通」の女性よりも「身体的魅力が高い」女性を選ぶことで得られるベネフィットが同程度であることを示唆するものである。これらの結果は、男性は配偶相手

として、短期配偶をおこなったという評判がたちにくい女性を選択しやすいことを示唆しており、研究4の仮説2を支持するものである。

また、「身体的魅力が普通で、評判が伝わりにくい」女性（M・W）と「身体的魅力が普通で、評判が伝わりやすい」女性（R・Nさん）の間には有意な差はなかった。この結果は、研究4の仮説3を支持しなかった。このような結果が得られた要因として、研究4の実験計画の問題が考えられるだろう。研究4は参加者内要因計画であったため、(4人の女性のプロフィールはランダムに提示されていたが)参加者は複数の女性のプロフィールを比較することができた。短期配偶をおこなうといっても、その場で相手にできるのは一人に限られるため、全ての女性を明確に区別する必要はなく、より望ましくない女性（M・W、R・N）は、それほど区別しなかったのかもしれない。この点については今後、実験計画を参加者間要因に変更して改めて検討する必要がある。

さらに、研究4では評判の伝わりやすさを共通の知人の有無によって操作していた。しかし、実際に知人の有無によって評判の伝わりやすさが操作できていたかどうかは定かではない。研究3と同様に、口の堅さの情報を加えることで具体的に評判の伝わりやすさを操作した研究をWebでおこなうことで、研究3の知見の一般化可能性を検討する。

研究 5

研究5では、研究3の一般化可能性について検討する。具体的には、身体的魅力と共通の知人の有無、口の堅さを組み合わせ、3つのパターンの女性のプロフィールを提示する。

仮説

男性が短期配偶相手を選択する場合、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が堅い」女性、「身体的魅力が普通、共通の友人がいない、口が堅い」女性、「身体的魅力が高い、共通の友人がいる、口が軽い」の順に選好されるだろう。

方法

調査期間 2016年1月27日～2016年1月31日に、Web調査会社（株式会社インテージ）に調査を依頼した。

参加者 一般市民213名（平均年齢39.76歳； $SD = 11.08$ ）。参加者はすべて男性であった。なお、内1名が外国籍であった（外国籍の参加者は分析から除外した）。

実験計画 「身体的魅力が高い、共通の知人がいる、口が堅い」vs. 「身体的魅力が高い、共通の知人がいる、口が軽い」vs. 「身体的魅力が中程度、共通の知人がいない、口が堅い」の1要因3水準の参加者内要因計画であった。

刺激（提示した女性のプロフィール）：3人の女性は「N・Sさん」、「C・Tさん」、「M・Wさん」とし、順に「年齢：28歳、星座：水瓶座、見た目：可愛い、共通の知人がいる、口が堅い」、「年齢：28歳、星座：牡牛座、見た目：可愛い、共通の知人がいる、口が軽い」、「年齢：28歳、星座：天秤座、見た目：普通、共通の知人はいない、口が堅い」とした。

手続き

参加者には「恋愛観に関する研究」であると説明した上で、Web上で調査をおこなった。調査を実施するにあたり、参加者に、個人を対象とした分析はおこなわないことや、質問項目への回答中に回答したくない項目があった場合には、回答をしなくても構わないということを伝えた。質問項目の主な内容は以下に示した。

- (1) 性別、年齢、配偶関係、国籍などのデモグラフィック要因について尋ねた。
- (2) フィラー項目として、恋愛に対する価値観について5項目7件法で尋ねた（例：「私は、恋愛は人生を豊かにしてくれるものだと思う」）。
- (3) 女性のシルエットの画像（同一の画像）とともに、上記の3人の女性のプロフィールを提示し、短期配偶相手としてどのくらい魅力的に感じるかについて7件法で尋ねた（1：全くそう思わない～7：非常にそう思う）。具体的には、「今あなたは遊びで1日だけsexする相手を選ぼうとしています。以下に挙げる女性は1日だけの相手として、どのくらい魅力的だと思いますか」と尋ねた。女性の魅力度の解答順は、カウンターバランスをとって提示した。

結果と考察

研究5の仮説は、男性が短期配偶相手を選択する場合、「身体的魅力が高い、共通の知人がいる、口が堅い」女性、「身体的魅力が普通、共通の知人がいない、口が堅い」女性、「身体的魅力が高い、共通の知人がいる、口が軽い」の順に選好されるだろうというものであった。仮説を検討するために参加者内要因の一元配置の分散分析をおこなった結果、要因の効果が有意であった ($F(2,394)=150.19, p<.01$)。そこで下位検定をおこなった結果、「可愛い、共通の知人がいる、口が堅い」女性（「N・S」； $M=5.28$ ）、「普通、共通の知人がいない、口が堅い」女性（「M・W」； $M=4.97$ ）、「可愛い、共通の知人がいる、口が軽い」女性（「C・T」； $M=3.48$ ）の順で魅力的だと評価されていた。

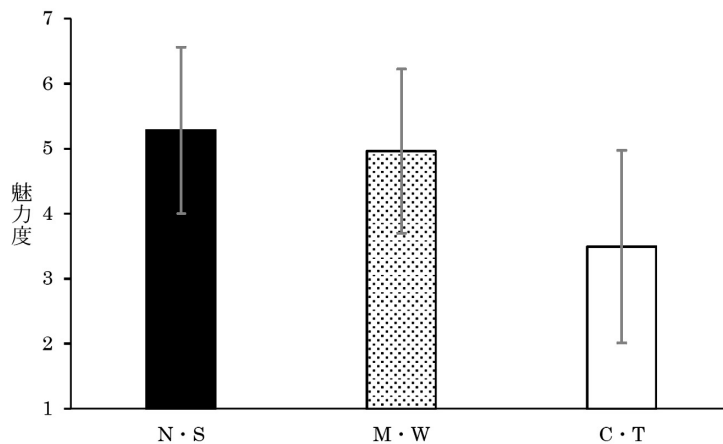


Figure 5. 各女性の魅力度の平均値

(注1) 得点が高いほど短期配偶相手として魅力的だと感じている。

(注2) 図中のバーは標準偏差を表している。

(Figure 5)。この結果は研究5の仮説を支持するものである。

研究5の結果は、研究3の結果と同様に、男性は短期配偶をする際、口が堅い女性であるならば、心理的距離が近い女性であっても選好することを示すものである。これは、評判の伝わりやすさが男性の短期配偶相手の選択を規定することを示唆している。

総合考察

本研究では、評判の伝わりやすさが男性の配偶相手の選択に及ぼす影響を検討した。研究1では、短期配偶をしようとする場合には長期配偶をしようとする場合よりも、外集団成員を選択しやすいことが示された。研究2では、短期配偶をしようとする場合には長期配偶をしようとする場合よりも、外見的魅力が劣っていたとしても共通の友人がいない相手を選択することが示された。研究3では、外見的魅力と共通の友人の有無・口の堅さを組み合わせた場合には、口が堅い女性であれば、共通の友人がいても選択することが示された。研究4、5では、研究2、3の一般化可能性について検討し、概ね知見は再現された。これらの結果は本研究の仮説を支持するものであった。

これまでの研究では、短期配偶には子どもの数を増やすことができるというベネフィットがあるということが強調されてきた。しかし、その一方で短期配偶には、短期配偶相手に配偶者がいた場合にその配偶者から暴力を受ける可能性がある、短期配偶相手の父親や兄弟から暴力を受ける可能性がある、望ましい女性から長期配偶相手として選ばれなくなる、といったコスト (Buss, 2012) があることは看過されてきた。本研究ではこうした短期配偶のコストに注目し、コストが男性の短期配偶相手の選択に及ぼす影響を検討した。

これまでの男性の短期配偶相手の選択の研究では、子どもの数を出来るかぎり増やすという観点から、身体的魅力以外の特徴の水準を下げることで繰り返し示されてきた (Kenrick et al., 1990; Li & Kenrick, 2006)。本研究では、短期配偶のコストに注目することで、これまで検討されてこなかった評判の伝わりやすさに関する特徴について検討をおこなった。研究の結果、男性は短期配偶をする際、評判がたつ可能性があるときには(従来、短期配偶をする際最も重視することが頑健に示されてきた)身体的魅力 (Li & Kenrick, 2006) すら軽視することが示された。この結果は、ヒトの配偶行動を理解する上で評判という要因が無視できないことを示唆しており、男性の短期配偶について新しい視座を提供するものといえるだろう。

ただし、本研究の結果はコミットメントの回避 (Jonason & Buss, 2012) という観点から説明できるかもしれない。すなわち、短期配偶後にコミットメントをしなくても済むように遠い関係の相手(外集団成員など)を選んだのかもしれない。しかしながら研究3、5では、口が堅ければ外集団成員よりも内集団成員を選択していた。このことは、短期配偶後のコミットメントを回避するために外集団成員を選択していたわけではないということを示唆している。

最後に今後の展望について述べる。第1に、本研究では参加者を男性に限っていたために、女性においても同様の選好パターンがみられるか明らかではない。ただし、女性が短期配偶をおこなったこ

とを知られた場合にも、長期配偶相手として望ましい男性を得られなくなるなどのコストがかかると考えられる。そのため、女性においても本研究でみられた選好パターンがみられると思われるが、この点については実際に確認する必要があるだろう。

第2に、本研究で見られたような選好パターンは、知覚者側の要因によって変わる可能性がある。例えば、多くの集団（例．複数のサークル）に属し、抜けても良い集団をもつ人は、抜けても良い集団で悪い評判がたつことを気にしないことが考えられる。したがって、多くの集団に属している人は所属している集団があまりない人に比べて評判を気にせず、本研究でみられたような選好パターンは示さないかもしれない。こういった選択者側の要因についても今後検討していく必要があるだろう。

これまでの配偶者選択の研究では、親の投資理論などの、動物全般に適用できる理論にもとづいて多くの研究がおこなわれてきた。その一方で、ヒトの生態（例．群れ生活）が配偶者選択に及ぼす影響についてはほとんど検討されてこなかった。しかし、本研究の結果が示唆するように、ヒトの生態も考慮しなければ、配偶行動を十分に説明することはできない。今後はヒトの生態も考慮しながら配偶行動を包括的に説明していく必要があるだろう。

引用文献

- Buss, D. M. (2012). *Evolutionary psychology: The science of the mind* (4th ed.). Boston, MA : Allyn and Bacon.
- Buss, D. M., & Schmitt, D. P. (1993). Sexual strategies theory : An evolutionary perspective on human mating. *Psychological Review*, *100*, 204-232.
- Clark, R. D., & Hatfield, E. (1989). Gender differences in receptivity to sexual offers. *Journal of Psychology and Human Sexuality*, *2*, 39-55.
- Gladue, B. A., & Delaney, J. J. (1990). Gender differences in perception of attractiveness of men and women in bars. *Personality and Social Psychology Bulletin*, *16*, 378-391.
- Johnston, V. S., & Franklin, M. (1993). Is beauty in the eye of the beholder? *Ethology and Sociobiology*, *14*, 183-199.
- Jonason, P. K. & Buss, D. M. (2012). Avoiding entangling commitments : Tactics for implementing a short-term mating strategy. *Personality and Individual Differences*, *52*, 606-610.
- Kenrick, D. T., Sadalla, E. K., Groth, G., & Trost, M. R. (1990). Evolution, traits, and the stages of human courtship : Qualifying the parental investment model. *Journal of Personality*, *58*, 97-116.
- Li, N. P., & Kenrick, D. T. (2006). Sex similarities and differences in preferences for short-term mates : What, whether, and why. *Journal of Personality and Social Psychology*, *90*, 468-489.
- 新井田恵美・堀毛一也（2014）．評判が男性の短期配偶戦略に及ぼす影響 日本グループ・ダイナミクス学会第61回大会発表論文集, p 14-17.
- Simpson, J. A., & Gangestad, S. W. (1991). Individual differences in sociosexuality : Evidence for convergent and discriminant validity. *Journal of Personality and Social Psychology*, *60*, 870-883.
- Symons, D. (1979). *The evolution of human sexuality*. New York : Oxford University Press.
- 山岸俊男（2009）．集団内協力と集団間攻撃：最小条件集団実験の意味するもの, *リヴァイアサン*, *44*, 22-46.

【Abstract】

The influence of reputations on male mate selection

Emi NIIDA* · Kazuya HORIKE**

We examined the influence of reputation by women when selecting short-term male partners. Buss (2012) suggested that getting reputations as a womanizer carries costs for men. Therefore, we predicted men would attempt to avoid creating such images when seeking (short-term) partners. First, we conducted three studies among Japanese university students. Second, in order to confirm whether these findings can be replicated, two additional studies were conducted among the Japanese general public. Results that supported the hypotheses were obtained. We discussed the relationship between male short-term mate selection and “bad” reputations.

Key words : male short-term mating, mate selection, reputations, replication, web surveys

私たちは、女性からの評判が男性の短期配偶相手の選択に及ぼす影響を検討した。Buss (2012) は、男性にとって遊び人という評判がたつことはコストとなることを示唆している。そのため、私たちは男性が短期配偶をする際には、そうした評判に敏感で、そうした評判が立つことを避けると予測した。まず私たちは学生を対象に3つの研究を実施した。その結果、上記の仮説を支持する結果が得られた。次に、この知見が再現できるかどうかを確認するために、一般人を対象に2つの研究を実施した。ここでも仮説を支持する結果が得られた。私たちは、男性の短期配偶相手の選択と悪い評判の関係について議論した。

キーワード：男性の短期配偶、配偶者選択、評判、一般化可能性、Web調査

* An encouraging research fellow of the Institute of Human Sciences at Toyo University

** A visiting research fellow of the Institute of Human Sciences at Toyo University